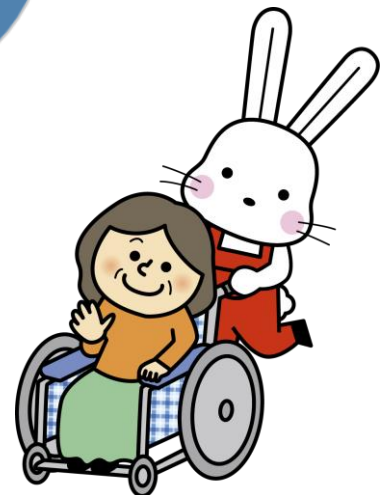
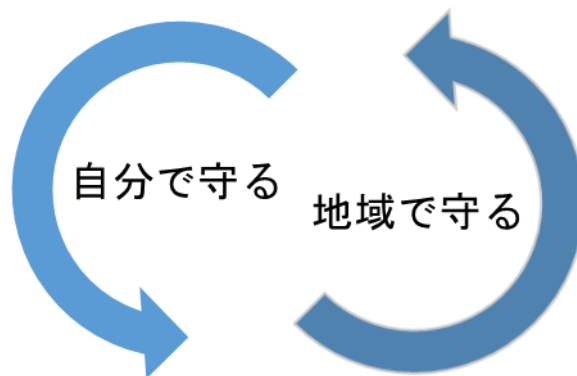


令和2年4月改訂

保存してご利用願います。

障がいのある方の災害対応てびき  
～災害から身を守るために～

視覚障がいのある方へのサポート



福島市いきいき共生推進委員会  
福島市

## 視覚障がいのある方をサポートするとき

### 【大切なこと】 言葉で情報を伝えましょう

#### ■ 主な特性等

- 光を感じない<sup>ぜんもう</sup>全盲
- 眼鏡等の使用により文字が識別できる<sup>じやくし</sup>弱視
- 見える範囲が狭くなった<sup>しやきょうさく</sup>視野狭窄
- 特定の色の識別が困難な<sup>しきかくとくせい</sup>色覚特性
- 生活環境が突然変わると、日常的な行動でさえも困難になります。
- 掲示物等、視覚からの情報のみでは情報を受け取れません。
- 状況が変化したときに単独行動が困難です。
- 色覚特性の場合は、色分けされた情報の識別が困難です。

#### ■ 避難誘導の仕方

- 声のかけ方は、本人のそばへ行き、「町会の〇〇です。お手伝いが必要ですか？」、「近所の△△です。一緒に避難先まで行きましょうか？」等と声をかけると安心します。
- 他の視覚障がいのある方と同じ避難場所を希望するか、誘導ボランティアの派遣を希望するかを確認しましょう。
- 安否確認時に正確な情報が得られているかを確認し、白杖の有無に関わらず、必ず人的支援によって避難所への誘導等、避難行動を支援しましょう。

具体的には、

- どのように誘導すればよいかを確認しましょう。
- 支援者の肩や肘につかまってもらい、支援者が半歩前を歩きましょう。
- どこを歩いているのか、道路や周囲の危険箇所を伝えながら誘導しましょう。
- 視覚障がいのある方から離れるときは、本人の立っている場所と、どの方向に何があるのかを説明しましょう。
- 安心してつかまっていられる場所や座れる場所で誘導を終了しましょう。
- 避難所到着時に、避難所内の情報をわかるように伝えましょう。

## ■ 避難生活支援で気をつけること

### 【避難所での支援】

- 本人の意向を確認の上、できるだけ出入り口やトイレに近い場所を確保する等、移動が少なく済むよう配慮をお願いします。
- トイレや水道等の場所確認の誘導を行います。具体的には、初めて利用するトイレへの誘導を頼まれたら個室まで案内し、水の流し方、便器の向き、トイレトーパーの位置等、中の様子を説明するようお願いします。
- 仮設トイレを屋外に設置する場合、壁伝いに行くことができる場所に設置するか、順路にロープを張り移動が安全に行えるよう配慮をお願いします。
- 避難所に白杖の予備を置いてください。白杖等の補装具や日常生活用具の破損・紛失に応じて、修理・支給できるよう準備をお願いします。
- 盲導犬同伴の場合の対応を事前に確認しておきましょう。特に盲導犬の排泄場所について配慮をお願いします。

### 【情報提供】

- 掲示物は必ず読み上げましょう。加えて、点字や拡大文字、録音された音声情報、音声コード付きの資料等、複数の組み合わせでコミュニケーションをとるようお願いいたします。また、必要に応じボランティアを配置するほか、カセットテープレコーダー、点字器を設置するよう配慮をお願いします。
- 特に重要な情報は、音声情報を録音したカセットテープの配付や点字による紙媒体等により情報を提供するよう配慮をお願いします。ただし、点字を理解できる視覚障がいのある方は少ないので、本人の希望に沿った方法での情報提供をお願いします。
- 情報は正確に伝える必要があるため、指示語（あれ・これ・あちら等）を使わず、できる限り具体性のある表現でお願いします。
- ざわついた環境では、音声による情報が正しく伝わりません。正確な情報と具体的に「どう行動するか」が伝わるように工夫するとともに、必ず人的な支援を行うよう配慮をお願いします。

## ■ 災害発生時に困難なこと

- 危険がわかりません（視覚による状況把握が困難です）。
- どこに逃げればいいのかわかりません（案内板等を見ることができません。よく見えないことで避難に必要な情報入手が困難です）。
- 困っていることが伝えられません（周囲に人がいるかどうかわからないので困っている状況を伝えることが困難です）。
- 自力で逃げることはできません（周囲の状況が変わってしまうと、住み慣れた地域でも避難行動が困難です）。
- 平常時と違う状況に対応できません（街灯等を目印として歩いている弱視の方等は、停電により歩行困難になります。誘導するとき、混雑や渋滞に巻き込まれると誘導が困難になり、危険な場合があります。豪雨のときは、視界が悪くなり、豪雨の音しか聞こえない等、危険が増します）。

## ■ 本人、家族等から支援者へ （知っておいてほしいことを記入しましょう）

（自由記入欄）

（例）私たちは、誰かとすれ違っても自分から挨拶することはできません。白杖を持っていたら、まず声掛けをしてください。

.....

.....

.....

.....



## ■ 非常用持出品や備蓄品

(本人、家族や地域支援者と一緒に確認・準備することが大切です)

- |   |                                       |
|---|---------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 眼鏡                         | <input type="checkbox"/> 白杖           |
| <input type="checkbox"/> 常用薬                        | <input type="checkbox"/> 笛            |
| <input type="checkbox"/> 時計（音声・触知式等）                | <input type="checkbox"/> 緊急時の連絡先の点字メモ |
| <input type="checkbox"/> 点字板                        | <input type="checkbox"/> メモ用録音機       |
| <input type="checkbox"/> 携帯式ラジオ（カード等）               | <input type="checkbox"/> 軍手           |
| <input type="checkbox"/> 情報を記入したカード（例えば、救急安心お守りカード） |                                       |
| <input type="checkbox"/> その他（                       | ）                                     |

## ■ 事前の対策

(本人、家族や地域支援者と一緒に確認・準備することが大切です)

- いつでも情報が得られるように、ラジオや点字板等を身近な場所に置いておきましょう。
- 白杖には、暗闇でもわかるように発光シール等を貼り、地震等で被害を受けないような場所に置いておきましょう。
- 家の物の配置や、非常持出袋等の配置を常に一定にしておきましょう。
- 飛び散ったガラス等に備え、厚底靴等を用意しておきましょう。

## ■ 災害発生時にすること、気をつけること

- まず、落ち着きましょう。そして危険から体を守り、人を呼びましょう。
- 自宅で災害が発生したときは、準備してある非常持出品を持って避難しましょう。